



民主党

やるべきことがある!!

東京都議会議員

吉田康一郎

平成19年(2007年) 4月号

# 都議会レポート

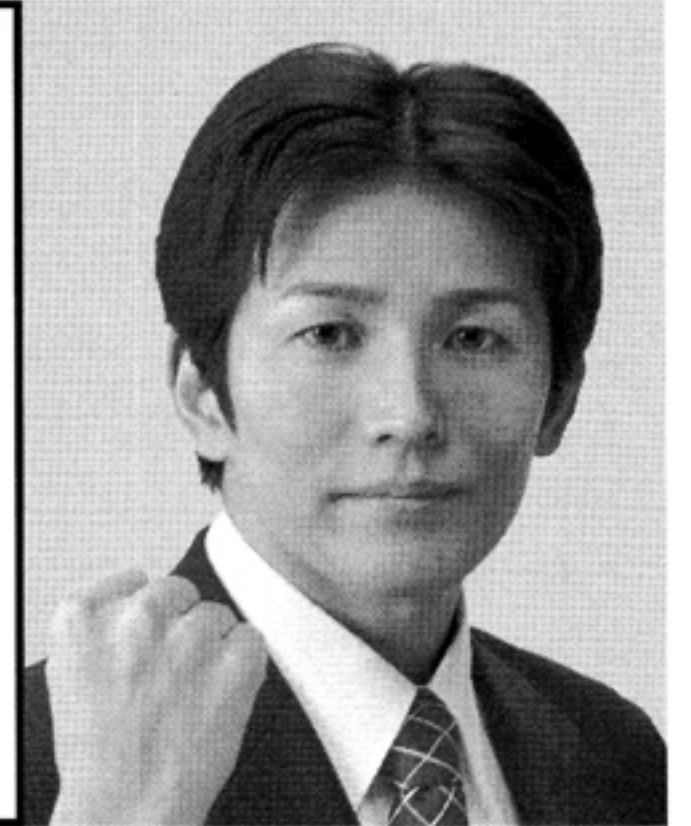
発行 都議会民主政策調査会

所在地 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1

電話 03-5320-7230 F A X 03-5388-1784

## 東京都知事に、石原慎太郎氏三選。 引き続き、都政の改革に全力で取り組みます。

去る4月8日の東京都知事選挙において、現職の石原慎太郎氏が三選しました。民主党は、前宮城県知事の浅野史郎氏を支援しましたが、一步及びませんでした。皆様の審判の結果を真摯に受け止め、反省すべき点は反省し、三期目の石原都政に対しては、引き続き是々非々で厳しくチェックしつつ建設的な議論を提起し、真に都民に役立つ都政の実現に向けて全力で取り組んで参ります。



## 第一回定例会が閉会 -平成19年度予算案に、苦渋の反対-

2月7日から3月9日まで、平成19年第一回定例会が開催されました。

今議会では、東京都が昨年12月に策定した「10年後の東京 ~東京が変わる~」を踏まえ、平成19年度の予算案等について審議が行われました。

都議会民主党は、都知事選を睨んで、会派結成以来初めて一般会計予算案に反対しました。吉田康一郎も苦渋の末、会派の決定に従いました。

### □ 平成19年度一般会計予算案に反対

定例会最終日の3月9日、平成19年度予算案が可決・成立しました。

予算規模は、一般会計6兆6020億円、総額13兆719億円であり、10年後の東京の姿を展望しつつ、安全・安心の確保、福祉・医療の充実、産業の振興、環境問題、都市基盤の整備などに取り組むとともに、一時は1兆円に達していた「隠れ借金」を解消し、基金の積立も行うものです。

しかし都議会民主党は、都知事選を睨んで石原知事への対決姿勢を強め、知事の政治姿勢、震災対策や雇用格差の是正、子育て支援、福祉対策が不十分である等の理由から、会派結成以来初めて一般会計予算案に反対しました。

吉田康一郎は、民主党の要望も盛り込まれている予算案全てに反対するのではなく、予算組み替え動議を提出して対案を示すべき、と強く主張しましたが、「反対派」に受け入れられず、苦渋の末、党内の結束を優先し、予算案に反対という会派の決定を受け入れました。

### □ 「10年後の東京 ~東京が変わる~」

昨年12月、都は、10年後の東京の目指すべき姿と、それに向けた政策展開の方向性を示す「都市戦略」として、「10年後の東京 ~東京が変わる~」を策定・公表しました。

同戦略は、水と緑の回廊で包まれた美しい東京の復活、世界で最も環境負荷の少ない都市の実現、災害に強い都市づくり、超高齢社会の都市モデルの創造など8つの目標を掲げた上で、より具体的に、1000haの緑の創出、Co2排出量の25%削減、都内住宅90%以上の耐震化、待機児童5000人の解消、障害者雇用の3万人増加、三環状道路の整備、羽田空港の国際化、横田基地の軍民共用化、東京港の埠頭機能強化など、様々な目標を設定しています。

三期目の石原都政は、この実現に向けて取り組んでいくこととなります。



## 平成18年度一般会計補正予算等に賛成討論



今回の定例会では、平成18年度一般会計補正予算など、会期末より前に採決を求められる議案について2月17日に中途議決を行い、都議会民主党は、補正予算案を含む知事提出の全議案に賛成しました。

吉田康一郎は、会派を代表して賛成討論に立ち、都知事選を目前に控え、他会派からの激しい野次と怒号が飛び交う中、堂々と討論を行いました。

平成18年度最終補正予算案は、3743億円の都税の増収に支えられ、総額8549億円の補正を行うものである。事業予算について喫緊の課題に絞って予算を計上し、他方、財政基盤の構築を目指し、減債基金積立不足額の圧縮を優先し、3251億円を計上した。また将来の需要を見据えた財政調整基金にも326億円を積み立てている。これらは、過去に行った財源対策負担の解消、東京の将来の課題に対応できる体力を確保するための適切な措置と考える。

今回、区部環状道路や多摩南北道路など都市の骨格を形成する重要な道路、放射6号線の完成を見据えた青梅街道中野坂上付近の拡幅など、効果の高い事業が選定されている。さらに、ゼロ国債の発行による神田川の整備のみならず、善福寺川の護岸整備の事業促進に向けた債務負担行為を計上している。引き続き、妙正寺川・善福寺川流域における護岸や調節池の整備など、流域の浸水対策を強化していく必要がある。

公債費会計補正予算案は、隠れ借金である減債基金積立不足の圧縮を目指す取組みである。この最終補正と来年度当初予算で4351億円の全額を解消し、一時は1兆円にも達していた隠れ借金が全て解消される。

障害者自立支援対策臨時特例基金と、障害者自立支援対策臨時特例交付金による特別対策は、国の補正予算で特別対策費960億円が盛り込まれたことに伴い、都の18年度補正予算で96億円を受け入れて基金とし、そのうち18億円を一般会計に繰り入れ、利用者負担の軽減、事業者に対する激変緩和、小規模作業所等への助成などの特別対策を実施するものである。

しかし、そもそも制度実施直後にこれだけの補正が必要となったのは、この制度自体に、障害者に関わる多様な実情に対応し切れていないまま負担増が先行し、自立支援策が不十分であるなど、多くの問題があるからである。この課題への明確な対応が示されないままでは、「激変緩和措置」により急場を凌ぐことができても、措置が終了し、法の見直しが行われる3年後には、再び制度自体の問題が顕在化してしまう。

今回の補正の背景となった、利用者からの悲鳴とも言える厳しい声にしっかりと向き合い、サービスの利用状況を注視し、都としても適切に対応していかなければならない。



## 警察大学校等跡地の地区計画について問う

1月25日の都市整備委員会において、中野区にとって長年の懸案である、中野四丁目地区、いわゆる警察大学校等の移転跡地の地区計画について質しました。

吉田 本地区を含む一帯は、中野区役所一帯として約十万人を収容する避難場所に指定されている。今地区計画において、東京都震災対策条例と整合性のとれた広域避難場所として、きちんと機能が確保されるのか。

宮村市街地整備部長 開発後も、現行と同規模の安全な避難場所を確保するよう、区と連携して取り組む。

吉田 今計画では、1.5haの都市計画公園と1.5haの公共空地を確保し、更に開発事業者を誘導し、3ha以上の防災公園を整備することとしているが、当初計画の4ha、あるいはそれ以上のまとまった緑地となるよう誘導してほしい。

市街地整備部長 事業者の開発を適切に誘導し、平成13年度に策定した土地利用転換計画案に記載されたものと同等の空間を確保していく。

吉田 震災時の帰宅困難者対策、高層ビルからのガラスの落下や火災旋風の恐れ、区域内の中学校の良好な環境の確保等については。

市街地整備部長 帰宅困難者の受入れ等、災害時の救援体制について、区等と協力関係を築く。

避難場所の安全性確保には、専門家の意見や最新の情報を踏まえて取り組む。

中学校周辺については、土地利用計画を適切に誘導して良好な環境の形成を図っていく。



## 東京都耐震改修促進計画について

去る1月30日、都が「東京都耐震改修促進計画」の素案を取りまとめたことを受け、都市整備委員会では、2月6日に都市整備局より同素案について説明を聴取し、19日、質疑を行いました。同計画は、3月27日に策定・公表されました。

**吉田** 来年度以降、特別区で耐震改修助成制度がない区は、中野区だけとなる。中野区に対して制度を創設するよう働きかけてほしい。

**金子市街地建築部長** 整備地域を抱えている中野区には、耐震改修助成を創設してもらうことが望ましいと認識しており、働きかけていきたい。

**吉田** 昨年6月に改正、公布された建築基準法では、

国の指定した確認検査機関についても、都に立入検査の権限が付与されることになった。民間の指定確認検査機関に対する立入検査の体制を強化するとともに、例えば、業務状況を抜き打ち検査するなど、緊張感のある厳格な方法で、しっかり指導・監督してほしい。

**市街地建築部長** 必要な検査体制を整備し、抜き打ち検査を含め、厳格に立入検査を実施するなど、中間検査や完了検査が適正に行われるよう努めていく。



## 荷さばき車両の駐車施設の確保を

昨年6月の改正道路交通法の施行により、違法駐車取締りが強化されたことに対応し、都では、荷さばき車両の駐車施設の確保対策に取り組んでいます。3月1日の都市整備委員会では、最近の取組み状況について聞きました。

**吉田** 荷さばきスペースの確保対策の最近の状況は。

**石井都市基盤部長** 「スムーズ東京21拡大作戦」の一環として、コインパーキングに荷さばき車両を受け入れてもらう取組みを進め、12月末で250カ所以上に。

また、道路整備保全公社と連携し、都内総合駐車場案内サイト「s-park」において、荷さばき可能駐車場の情報を提供している。

**吉田** 荷さばき需要の高い所に未利用地などの公有地があれば、これを活用した取組みも進めていくべき。

**都市基盤部長** 現在、荷さばきの駐車需要が高い地区などの調査を進めており、調査結果を踏まえ、民間施設の活用とともに、公有地等の利用可能性も視野に入れて検討するなど、幅広く荷さばき対策を進めていく。



## やんば ハツ場ダム建設の必要性を問う

同じく3月1日、平成19年度予算案の都市整備局所管分の調査の一環として、国が昭和40年代に計画し、現在、利根川支流の吾妻川（群馬県）で建設が進められているハツ場ダムについて、本当に建設が必要なのか質しました。

**吉田** 都が今後ハツ場ダムに支出する予定額は。

**野本都市づくり政策部長** 都は、今年度分も含み、今後、414億円を支出する予定である。

**吉田** 今後、東京の水の需要は最大でも546万 $m^3$ /日程度と予測され、都の需要予測は過大である。これに対し、都が確保している水源量は実質的に660万 $m^3$ /日を超えており、更なる水源確保は不要ではないか。

治水面から見ても、国交省は、八斗島（やったじま）における基本高水流量（雨がそのまま河川に流れ出た場合の流量）を毎秒2万2000 $m^3$ と設定しているが、昭和25年以降、洪水規模が毎秒1万 $m^3$ を超えた記録は

なく、この設定自体が過大である。

更に、吾妻川が強酸性の川であること、ダム予定地周辺の地盤が軟弱であること等、多くの問題点が指摘されており、総事業費の更なる増加も懸念される。

改めてハツ場ダム建設の必要性を問う。

**都市づくり政策部長** 都は、区部東部地域の洪水被害の軽減や、都民への安定的な給水の確保のために必要なものであることから、利根川流域の他県とともに、ダム事業に参画している。

各質疑の全文は吉田康一郎ホームページに掲載しています。  
<http://k-yoshida.jp/index.html>

# 民主党公認・推薦の中野区議会議員・予定候補の皆さん

さえき としあき  
**佐伯 利昭**

現職3期 (公認)

法政大学法学部卒  
議会運営委員会 副委員長  
中野区上鷲宮3-14-9  
Tel 03-3999-5088  
Fax 03-3577-3267



ひらしま よしひと  
**平島 好人**

現職2期 (公認)

慶応大学法学部 現・正科生  
建設委員会 副委員長  
中野区新井1-34-17-402  
Tel/Fax 03-3386-2312



さかい  
**酒井 たくや**

現職1期 (公認)

大阪学院大学法学部卒  
文教委員会 副委員長  
中野区東中野4-25-5-104  
Tel/Fax 03-5386-2838



おくだ  
**奥田 けんじ**

現職1期 (公認)

明治大学文学部卒  
証券アナリスト  
総務委員会委員  
中野区南台1-6-14  
Tel/Fax 03-5761-7822



けいこ  
**のづ 恵子**

新人 (公認)

東京写真大学短期大学部  
(現・東京工芸大学) 卒  
民主党中野区政策委員  
中野区本町4-4-15-1F  
Tel/Fax 03-3381-8018



こばやし  
**小林 よしと**

新人 (公認)

明治大学法学部卒  
元自治基本条例審議委員  
中野区本町4-21-9  
Tel/Fax 03-3383-4890



はっとり さちこ  
**はっとり 幸子**

現職3期 (推薦)

共立女子短期大学卒  
財政制度調査特別委員会  
副委員長  
中野区新井3-33-9  
Tel/Fax 03-3385-4505



都政や中野区についての  
ご意見・ご要望を  
お寄せください!



ボランティアも常時募集しています!

吉田康一郎の役職・所属 【委員会】 都市整備委員会 【審議会】 都市計画審議会  
【会派】 総務副会長、まちづくり部会、子ども政策調査会、エネルギー・環境政策  
調査会、交通政策調査会、島嶼振興等調査会、議会改革PTなど  
【議員連盟】 都議会拉致議連幹事、防災都市づくり推進計画・促進議連、防衛議連、  
リニア建設促進議連、花粉症対策推進議連、オリンピック招致議連など

【吉田康一郎事務所】  
中野区新井1-1-16-202  
電話 03-5345-5443  
FAX 03-5345-5444  
Eメール voice@k-yoshida.jp  
HP <http://www.k-yoshida.jp/>